



羽場 勇也くん・富男さん

(中央区・11歳、59歳)
・弟がほしい。スポ少も頑張る
・温厚で景気を盛り上げてくれるといわれている「未年」にあやかって3年続きの山、海の不漁などを盛り返したいですね。

未



小中居 貴信・暢子さん

(堀内・35歳、35歳)
・けがをせず健康で仕事ができることを毎年の抱負にしています。家族全員何事もないように過ごしたいと思っています。
・何か一つ習い事をする、です。

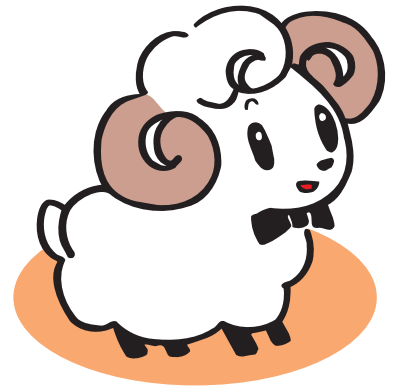
生まれた年(年齢)	人数
明治 40 年(95歳)	2人
大正 8 年(83歳)	15人
昭和 6 年(71歳)	47人
昭和 18 年(59歳)	50人
昭和 30 年(47歳)	52人
昭和 42 年(35歳)	33人
昭和 54 年(23歳)	26人
平成 3 年(11歳)	36人
合計	261人

(平成14年12月18日現在)



松葉まどか・智鶴子さん

(上区・11歳、35歳)
・去年は昆布も思わしくなく、海はだめでした。今年はサケもたくさん捕れて景気がよくなり家族全員、笑顔で過ごすことができますように。



加した羊毛の国内自給を図るために、**緬羊**(羊の別称)の飼育を奨励しました。ここでも、気候などの影響による試行錯誤はありましたが、次第に頭数も増え続け、多量にときは全国で百万頭近くが飼育されていました。現在では、北海道などを中心に、一万一千頭あまりとなっています。

十二支でなじみ薄い羊身の回りは洋製品の山

羊には、「おとなしい」「群れになる」などのイメージがあります。が、何よりも私たちが実感できるのは、ウールのセーターなど「羊製品」です。羊からは、衣・食・住に関するさまざまなものが作られています。羊毛は、衣類や寝具に、毛脂はせっけんや化粧品に、肉はさまざまな肉料理に、皮はバッグや敷物に、腸はテニスラケットのガットに、といった具合です。十二支の中では比較的なじみの薄い羊でも、私たちの身の回りにはたくさん「羊」がいるのです。

羊頭狗肉のたとえなど他動物と比べられ登場

「羊」を用いたことわざがいくつかあります。「群羊を駆つて猛虎を攻む」は、弱い羊を集めて強い虎を攻撃する

という、勝ち目が無いのに、弱いものたちが連合して強いものを攻撃することのたとえです。「羊頭狗肉」は、羊の頭を店先につるし、実は狗(犬)の肉を売るたとえで、見せかけは立派でも、中身がそれに伴わないことをいいます。「千羊の皮は一狐の腋に如かず」は、安い羊の毛皮を千枚そろえたところで(たくさん凡人がいても)、狐の脇から取れる高価なひとつまみの毛(一人の賢者)には及ばないという意味です。

羊は他の動物と並べられたり、比べられたりすることが多いようです。

悩みを抱え、困っている人は「迷える子羊」にたとえられ、「多岐亡羊」は、わかれ道が多いために、逃げた羊を見失ってしまうという意味で、方針が多いために、どれを選んだらよいか困ってしまうことです。

目標しつかりと見定め新世紀3年目に夢託す

昨年はサッカーW杯開催など明るい話題もありましたが、長引く不況など全体的には暗い、厳しいニュースが続いた年でもありません。今年は、各個人が自分を見失わないよう、目標をしつかりと見定め、その実現に向かって頑張っていくべきものです。